



木の温もりに 包まれた こだわりの家が できるまで

藤井さんはご夫婦と長女、ゆりあちゃんの3人家族。
ご実家が駐車場にしていた土地を譲り受け、
3階建ての新居を実現されました。
輸入住宅から始まって紆余曲折を経て
完成した本物の木の家。
町工場の残る地域の街並みに映えるお住まいが
実現するまでの顛末と、
住まいに対するご夫妻のこだわりを伺いました。

取材・文＝香川喜久江 撮影＝大木宏之

ご実家が駐車場にしていた
土地に新居建築を計画

藤井さんが家を建てようと思ったのは30歳を過ぎた頃。当時は会社の借り上げ社宅に住んでいたが、お子さんが生まれて手狭になったこと、年齢的にも働き盛りの今がチャンスと、思い切って行動を開始した。

当時は埼玉県浦和に住んでいたが、ご主人のご実家は東京都大田区にあり、駐車場として貸していた土地を所有していた。約22坪とそれほど広くはないが、最寄りの駅まで徒歩約5分、ご実家も近いとあって共働きのご夫妻にとっては絶好の立地だった。

「実家を訪ねるたびにそろそろ家を建てようと思うんだけど、とやんわりと声を掛けつつ頃合いを見計らっていました（笑）」とご主人。一方で建てるならどんな家にしようかと、散歩がてら近くの住宅展示場でモデルハウスを眺めて夢を膨らませていたと言う。

「当時は輸入住宅が流行っていました、どっしりとした本物の素材やアーティスティックなインテリアに憧れていました」と言うのは奥様の千雅さん。

藤井邸完成までのタイムチャート

96年頃～	●家づくりを考え始める お子さんが生まれ手狭になってきたので、実家の駐車場にしていた土地を譲り受け、家を建てたいと計画を始める。 ●情報収集 当時流行っていた輸入住宅に関心を持ち、散歩がてら住宅展示場にも何度か訪れてみる。
97～99年まで	●転勤で一時中断 静岡に転勤が決まり家づくり計画は一時中断したが、この2年間は家についてじっくり考える良い機会になった。
99年5月	●シックハウスについて 転勤中に奥様の千雅さんと長女のゆりあちゃんがアレルギー体質になり自然素材に着目。シックハウスについて書いた本を読む。
7月	●1件目の建築事務所 シックハウスについて書いた本に紹介されていた1件目の会社を訪ねる。施工例を見てガッカリ。
9月	●山中さんに出会う 山中さんを訪ね、金山杉の話や、木の家づくりネットワークの話聞いて求めていたものに出会えたと思った。
10月	●ボリュームスタディを行う 敷地に対してどのくらいのボリュームの家ができるか、図面に描いたものを確認し、夢が広がる。
11月	●厚いアンケートに答える 設計をするに当たって、建て主の考え方や要望を整理して満足のいく家を実現するためのアンケートに答える。2000年1月には初めてのプランが出来上がる。
00年10月	●着工 何度か小さな手直しを繰り返して、00年5月には最終案が出来上がり、準備を経て着工。
01年3月	●完成・入居 思い通りの3階建てが完成し、入居。



最初に記入した「家づくりカルテ」。家族の住まいに対する基本的な考え方や要望を整理するためのもの。



5年の月日を経て実現したこだわりの木の家。南側にあるアルコーブタイプの中庭は約2畳ほどの小さな空間だが、家中に光と風を取り入れる効果は抜群。

転勤の2年間は冷静に考える時間が持てた貴重な時間

結局、家づくりは白紙に戻ったわけだが、静岡への転勤は住まいについてじっくり考え直す良い機会になった。「土地はここにしかない」ので転勤している間は建てられない。持ってきた敷地図を見つめながら、ハウスメーカーが3階は建てられないのはどうしてなのか、時間があつたので雑誌や本を読んだり、法規制を勉強したり、冷静に考える時間ができかえってよかったと思います」とご主人。

そんなとき、奥様と長女のゆりあちゃんがアレルギー体質になった。ちょうどシックハウス症候群が話題になっ

気に入ったモデルハウスを訪問し、担当者に声を掛けてみたことも。

「東西に長い土地ですから、北と東は隣家に挟まれている。南の光を取り入れるためには2階リビングをと話しても、こちらの希望を無視してどれも1階リビング。周囲を見回してもロフト付きや3階建ての家も建っているのにできないと言います。各社ごとに決まり事があるらしく既存のプランをこねくり回しただけのようで限界を感じました」と奥様は話す。

いろいろな雑誌や本を読んでいたら、「施主のわがままをトコトン聞いてくれる」という設計事務所があり、そこに頼もうと思っていた矢先、ご主人に静岡への転勤の辞令が出た。

代表の山中文彦さんは、日本の住宅文化・家づくりの技術と伝統を継承しつつ、現代の新たな技術と素材を生かした木の家づくりを提案している。主となる構造材は山中さんが全国の木材産地の中から探し当てた山形県の金山杉。通常の国産材は、50年から60年で伐採するが、金山杉は80年から100年かけて育てる大径木生産方式を採用している。雪深い場所なので厳しい冬は成長がゆっくりになるため緻密な年輪と、強靱で木目の細かな美しい木材を産するのが特徴だ。大径木なので藤井

ていた頃だった。アレルギー体質は新築の家では発症しがちと言われているのでそれは避けたい。方向転換をして、自然素材や健康について考えるようになったと言う。

産地や職人さんとのネットワークを生かし太い金山杉の家を

2年間の転勤生活を経て東京に戻ったのが99年4月。シックハウスについて書いた本に自然素材を使って家を建てる会社や設計事務所を紹介されており、4社ほどを選んで連絡を取ってみた。2社は相談料を取ったり、対応が良くない。もう1社は、シックハウスについて詳しく熱心に説明してくれたが、実例を見たら自然素材を使っているもののごく普通の家で、新しい発想がないと判断。最後の1社が、フィードネット一級建築士事務所、最も納得のいった事務所だった。

どこにいても
さわやかな風が感じられる
外と内をつなぐデッキが
開放的な家



建築家の山中文彦さん（左奥）と藤井さん一家。自然の形状を生かしたトチの木の大テーブルは、家を作る前から気に入っていたもの。



上棟式の記念写真。職人さんたちと一緒に。

邸のような4寸角（直径12cm）の太い柱や梁も大きいものが採れる。良質な木材を十分に活用するために、木材産地の組合と、大工さんや工務店、そして建築家や設計事務所などの各フィールドがネットワークを組んで木の家をつくる集合体をつくっている。

「本物の木の家」というと、コストがかなりかかりそうと心配したのですが、コストも明確にしているという点に惹かれました」とご主人は話している。

希望したのは 家族が自然に交流できる家

藤井さん夫妻の家づくりの過程で、山中さんが最初に行ったのは、ポリウムスタディ。つまりその土地にどれくらいのポリウムの家が建てられるのか、建築基準法や都市計画法などに照らして大きさを確認するものだ。

「ハウスメーカーに3階建ては建てられないと言われていたので、一番知りたかったことでした。言葉ではなく立体的な図面で示されているので、十分納得できました」。斜線制限をクリアすることで、立派な3階建てが実現できることが分かった。

次に渡されたのは、分厚い家づくりカルテ。暮らしに関する詳細な質問を記載したアンケートだ。現在の住まいの良い点や悪い点から始まって、ぜひ実現したいこと、必要な部屋の広さや持ち込みたい家具、ピアノのサイズなど、大きなことから小さなことまで膨

大な質問項目がある。

「このアンケートの膨大さにも感激しました。実現するしないはさておき、すべての要望を書き入れました。じっくり考えながら、時間をかけて書き込んでいくことで、自分たちの希望が浮かび上がってくるんです」とご夫妻。

「これを書いていただくことで、どんな家をつくりたいのか基本的な考え方が分かり、住まい手の姿が見えてきまし、ときにはヒントにもなるんです」と山中さん。実際、アンケートの「家族がくつろぐ場所から中庭が見たい」がヒントになって、2階リビングから眺められるデッキが実現した。敷地にかかる各種の法規制や条件とアンケートをもとに山中さんがつくりあげた藤井邸のプランは、生活する立場からの多少の変更はあったものの、ほぼ現在の形と同じものだったと言う。

人が見える、気配が見える、
そしてコストが見える、
すべてが見えることの安心感

プランづくりのコンセプトになったのは、「家族が自然に交流できる家」。日当たりの良い2階を家族のメインステージにしてひろまや食の間（ダイニング・キッチン）を。ひろまは長女のゆりあちゃんがバレエやダンスの練習ができるように、2面に鏡を張った壁のある吹抜けの空間。この2階の空間をより広々と見せているのが、ひろまと食の間の中間に設けた透明ガラス張りのデッキだ。1階の中庭から伸びる

ヒメシャラが顔を覗かせ、外でありながら内部でもある開放的な雰囲気をもたらしている。

「このデッキをなくしてひろまや食の間の面積を延長することは容積率の上では不可能ではありません。でも、実質的な広さは確保できるけれども、外部空間とのかかわりはとれない。それで藤井さんのご理解をいただいて居ながらにして自然を感じ取れるスペースにしたのです」と山中さん。

V字型にはめ込まれた木は、実は耐力壁のための筋かい。普通は壁になるところだが、筋かいを見せてあえてガラスにしたところが大きな特徴だ。このデッキによって、ひろまと食の間が一体化し、実際よりも空間を広く見せている。

「余計な仕切りはつくりたくなかった。この家はとても開放的でキッチンにいてもどこにいても常に家族の存在を意識できます。それに、ここでは何をしなければいけないという部屋の役割もあまり決めたくなかった」と奥様。

食の間には、どつしりとトチの木のテーブルが置かれている。湾曲した自然の形状が空間のイメージを和らげて心地よい雰囲気をつくっている。周囲には小さな木の椅子がランダムに置かれ、小さなスペースにもかかわらず多いときは10数人が座れると言う。

また階段も3階建て住宅の大きなポイントだ。階段が垂直的な連結装置となるため、これをどう演出するかが重



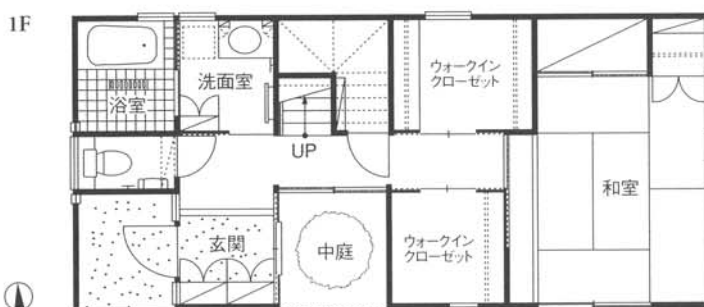
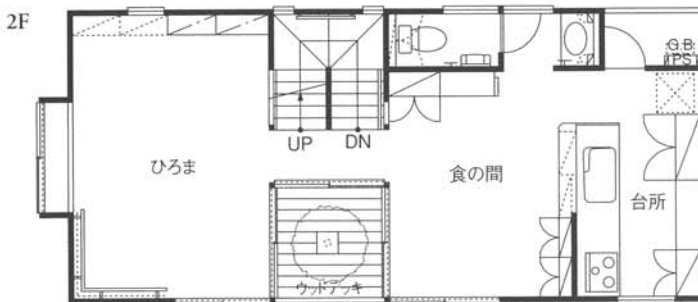
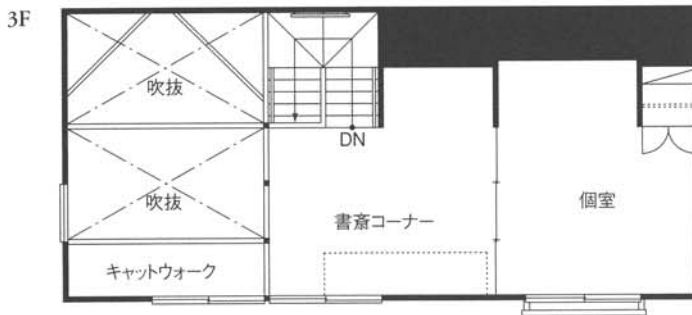
1. 玄関。障子入りの正面の丸窓から中庭の緑が見える。
2. 1階和室は障子の外側に木で囲んだ洗濯物干し場が。
3. 階段の上り下りの際に見える中庭の緑が開放感を。



1. 南側の道路に近いアールのアルコーブに玄関がある。
2. 野球のホームベース型のプレート。文字はゆりあちゃん。



本物の木に触れていると
心が洗われるような気分になりますね



要になる。藤井邸では階段の正面に中庭を設け、階段の上り下りの際に視野に緑が入るようにしたこと、開放感はいっそう高められた。

3階の勾配天井の近くには構造的な配慮から梁と梁の間に入れた火打ちが見えている。柱と梁、そして火打ちなど構造がすべて見えているので力強さにあふれ、それは安心感に通じる。「ウソで固めたものは少しのことです。揺らぐじゃないですか。本物の木に触れていると、心が洗われるような気分になりますね」とは奥様の感想だ。

「ひろまは昔の学校の講堂のようなイメージ。練習して床が凹んでもそれが残るような家になりたいという奥様の言葉が記憶に残っています」と言うのは山中さん。機能的な要望よりも、家に対する住む人の思い、心象風景みたいなものがキーワードになって全体を組み立てていくことができると話す。

「階段脇の柱の傷は、ゆりあが一輪車の練習をして付けた傷。外で練習する

のは悪いので家の中でやっていたのですが、がーんがーんと倒れて。『ダメでしょ』と言おうと思ったけど、柱が折れるわけではないので記念になるかなと。こんなふうに、本物の木の家は人生が吸い込まれていくような感じがして気持ちいいですね。それらの思い入れが家の愛着につながるし、家の物語にもなると思うのです」と奥様。

輸入住宅から始めてさまざまな変遷を経てきた藤井さんご夫妻の家づくり。自分自身にとって一番自然でいられるものを探し当てたと言えよう。

吹き抜けの大きな空間には
ガス温水床暖房を敷設
冬でも足元から暖かく
心地よい気分で過ごせます

2階のデッキからは前面の私道を眺められる。南側に面している
ので明るい光と風がふんだんに入る。樹種はヒメシラ。



3階キャットウォークから書斎コーナー
と子供室方向を見る。吹き抜け天井には
金山杉の美しい木目が見られる。



2階のひろまから吹き抜けと
食の間方向を見る。太い柱と
梁、繊細な木で矢羽根をデザ
インした腰壁などまるで美し
いオブジェのよう。

木製の可愛い椅子はご夫妻の趣味。オブジェになったり、
花鉢を載せたり、大勢の来客時は食の間の椅子にもなる。





食の間とキッチンは低いカウンターで緩やかに仕切られている。
造り付けの家具類にも金山杉が使われている。

ひろまの2面の鏡はゆりあちゃんのレッスン用に設けたもの。鏡に空間が映り、広がりをもたらす効果も。



合板にキズを付けたらただのキズ
キズも温もりになるのは
本物の素材しかあり得ないと
この家に住んでよくわかりました



DATA

所在地：東京都大田区
家族構成：夫婦十子供1人
構造：木造軸組構法
用途地域：準工業地域
第2種高度地域
建ぺい率：64.6%（許容70%）
容積率：150.8%（許容160%）
敷地面積：71.20㎡
延床面積：107.42㎡
1F床面積 39.13㎡
2F床面積 42.71㎡
3F床面積 25.58㎡
設計期間：2000年1月～2000年9月
工事期間：2000年10月～2001年3月
施工：協和建設工業

FINISHES

●外部仕上げ
屋根：ガルバリウム鋼板
外壁：自然顔料入りモルタル

●内部仕上げ
ひろま／
床：ナラ緑甲板 植物油塗り
壁：酸化黄入り漆喰塗り
天井：金山杉緑甲板赤白無節
食の間／
床：ナラ緑甲板 植物油塗り
壁：布クロス貼り
天井：金山杉緑甲板赤白無節
キッチン／
床：ナラ緑甲板 植物油塗り
壁、天井：準不燃布クロス貼り
書斎コーナー・子供室／
床：ナラフローリング
壁：布クロス貼り
天井：金山杉緑甲板赤白無節
和室／
床：畳
壁、天井：布クロス貼り
玄関／
床：タモ緑甲板 植物油塗り
壁：酸化黄入り漆喰塗り
天井：金山杉緑甲板赤白無節

●主要設備機器メーカー
照明：小泉産業
建築金物：美和ロック
衛生機器：TOTO
厨房機器：ナースステンレス

ARCHITECT

山中文彦／フィールドネット一級建築士事務所
東京都世田谷区松原5-27-11-201
tel：03-5301-2811
tel：03-5301-2828（木の家づくりネットワーク）
fax：03-5301-2812（共通）
<http://www.kinoie.ne.jp/>
info@kinoie.ne.jp

